

目的 小児糖尿病患児（以下患児）は成長期であるために年齢とともに身長・体重・所要エネルギーなどの値が増加し、インシュリン必要量も増加する。この間、急激な成長に伴う代謝の激しさ、運動と静態の極端なアンバランス、精神的不安定さなどにより血糖値の動揺の少ないのはまれである。今回、患児に対する栄養指導の指標となるものが求められたので報告する。

方法 I D D M患児24名を対象に生活・食事記録、カロリーカウンターにおける運動消費カロリーの測定、及び血液検査を行い検討した。①指示量に対する摂取エネルギーの充足率 ②年齢・体重などとの関係 ③登山における補食と低血糖について ④P/S比などの検討。

結果 ①カロリーカウンターαにて登山における運動量を測定した。登山における体重1kgあたりの運動量は年齢と負の相関を示した。 $(r = -0.82)$  ②運動量の70%未満の補食摂取（登山前+登山後+就寝前）をした群では、70～80%の摂取群に比べて低血糖の頻度が多い傾向にあった。このことより、登山のような運動量の多い運動を行なう際運動量を客観的に測定することにより、それに対する補食量を判断する参考になると考えられた。③牛乳は栄養上優れた食品で、できるだけ毎日一定量摂取することが望まれているが、その脂質には飽和脂肪酸が多いので、過量は高脂質血症、粥状動脈硬化の予防上好ましくない。しかし、成長期の患児に対し食物摂取の指導における脂肪組成について、牛乳は一定量、考慮の必要があることが示唆された。